

# 令和7年度 明知城跡発掘調査 現地説明会資料

令和7年12月13日 恵那市教育委員会

明知城跡は「遠山の金さん」の先祖である明知遠山氏の居城でした。戦国時代には武田と織田の係争地となり、小牧・長久手の合戦や関ヶ原の合戦と連動した戦乱を経験してきた城です。

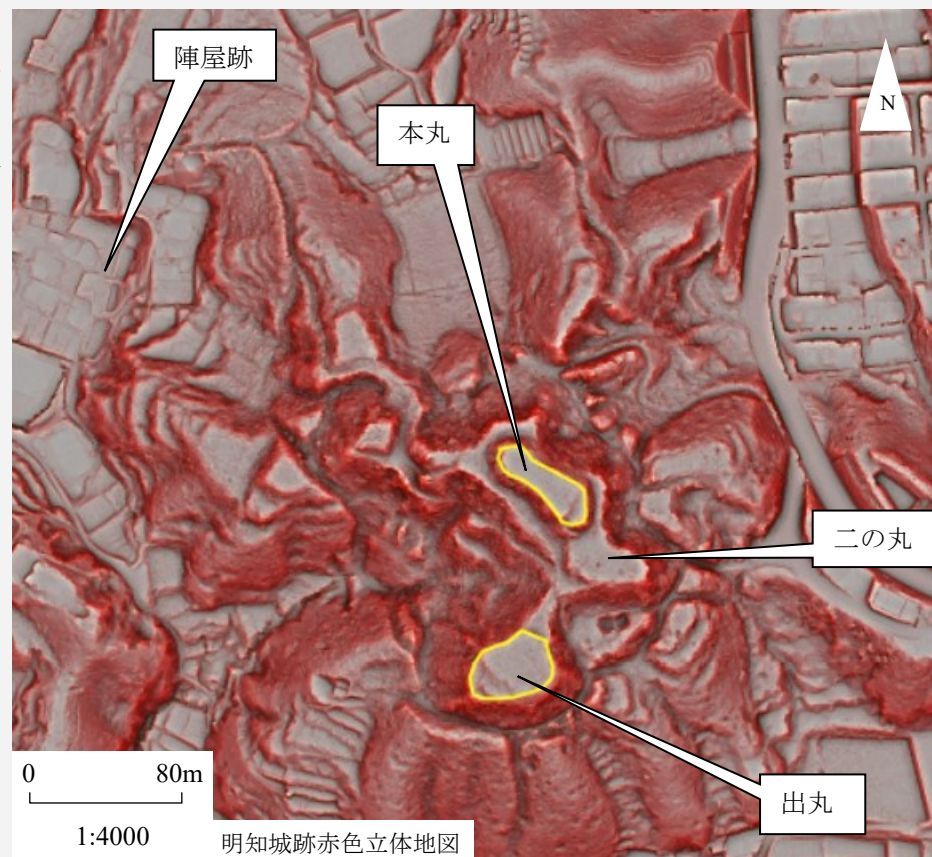
恵那市では昨年度より国史跡指定を目指した総合調査を進めており、今年度は昨年度に引き続き、明知城跡本丸・出丸の発掘調査を実施しました。

## ○発掘調査概要

【調査箇所】本丸(86㎡)

出丸(104㎡)

【調査期間】令和6年10月6日～12月中旬



## ○出丸のまとめ

昨年度は本丸の変遷として以下の3期を確認しました。

【1期】(16世紀中頃) 掘立柱建物の時期

【2期】(17世紀初頭) 礎石建物の時期

【3期】(17世紀中葉) 祭祀の場の時期

今年度は出丸においても本丸に対応する以下の2時期を確認しました。

【1期】(16世紀中頃) 掘立柱建物の時期

・柱穴が検出されています。多くの箇所では次の時期に切土されたため地山まで削られ、柱穴以外の遺構はありません。

【2期】(17世紀初頭) 礎石建物の時期

・礎石と造成面が検出されています。切土と盛土により曲輪が拡張されました。

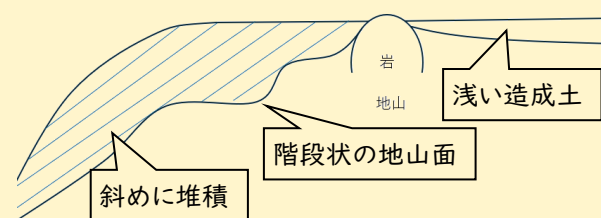
・3期に当たる時期は確認されず、出丸は使われていなかったものと考えられます。

## ②切岸の造成(2期)

曲輪中央付近の地山は表土から非常に浅く、地山の中にある巨大な岩も一部地表から出ていました。出丸が自然の山だった時はこのあたりが高い場所だったので、削られているのではないかと考えられます。

そこから図で見て左側方向の切岸へは地山が階段状に削られています。盛土した際に土が流出するのを防ぐための工夫と考えられます。この構造は本丸の方がよくわかります。

・土層模式図

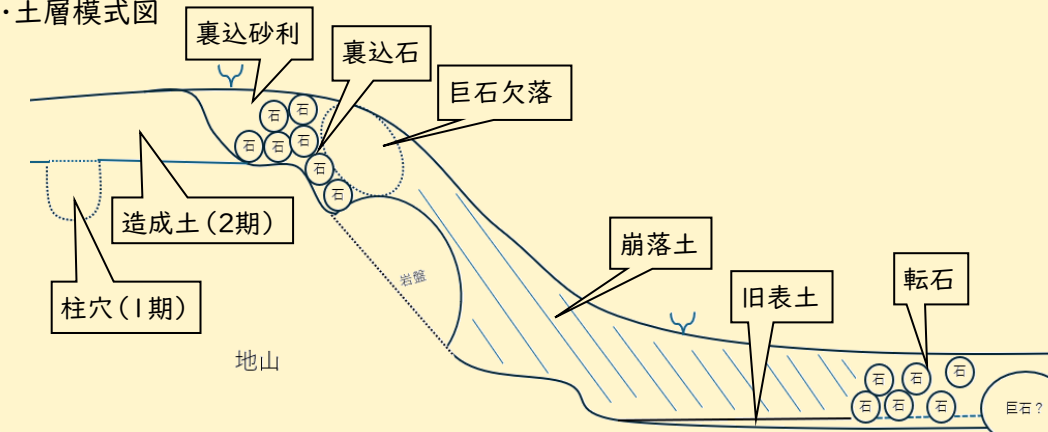


## ①巨石を用いた石垣(2期)

出丸の虎口は岩盤を削り、その上に巨石を際立たせるように配置していることが分かりました。裏込(石垣背後の排水を円滑にするために小石などを詰めた構造)は巨石と接する部分に人頭大以下の石を詰め、その背後に砂利を充填しています。

明知城跡はこれまで石垣のない城と考えられてきましたが、近世初頭には石垣が存在したことが今回の調査で初めて明らかとなりました。

・土層模式図



## ○発掘調査成果(出丸)

令和6年度掘削箇所

令和7年度掘削箇所



裏込(正面)

礎石列(2期)

柱穴(1期)

## ③出丸からの出土品

17世紀初頭とみられる高級陶器の志野や、中国から輸入された磁器などの陶磁片が多く出土しました。

こうした高級な陶磁器を使用する必要がある、格式の高い人物が出丸にいたことがうかがえます。



白磁

染付

染付

3点すべて中国磁器



志野織部丸碗

志野織部大鉢

志野向付

志野大鉢

4点すべて17C初頭



## ①本丸の石垣跡

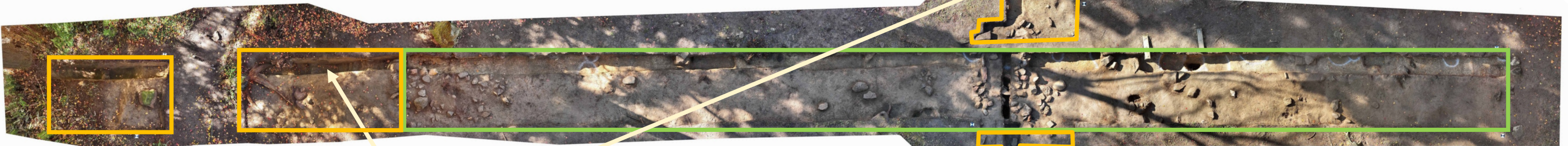
本丸登り口の脇の表土を除去したところ、裏込石が見つかりました。石垣の石は失われていますが、二の丸に点在する石がもともと石垣で使われていたものと考えられます。



0 2m  
1:100

## ○発掘調査成果（本丸）

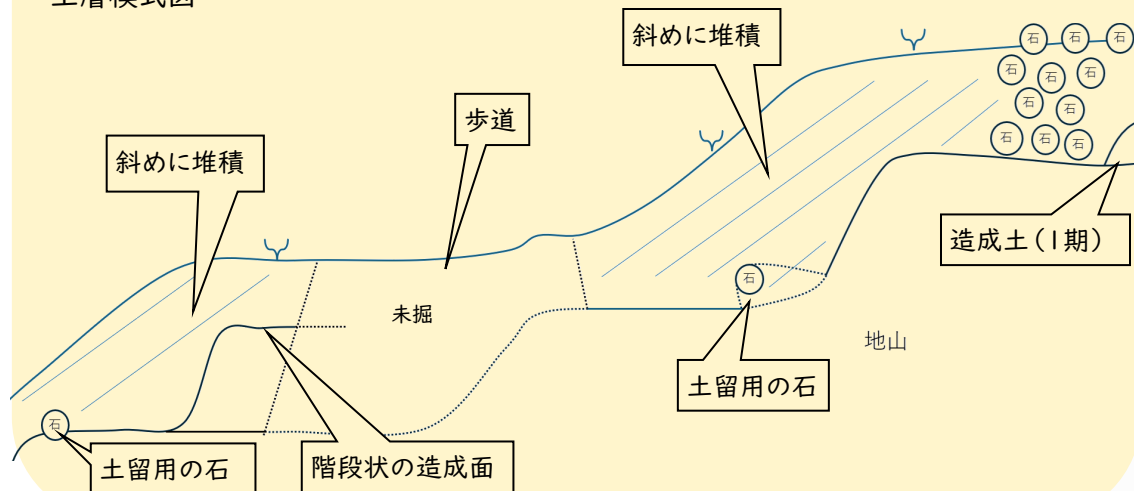
令和6年度掘削箇所    
令和7年度掘削箇所  



## ②切岸の造成（2期）

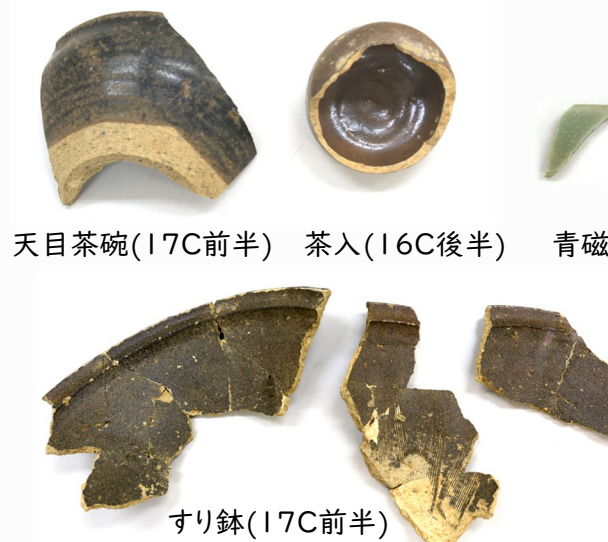
切岸は斜面を階段状に削ってから盛土することで土砂の流出を抑え、強度を確保していたと考えられます。階段状になった角の部分には石が置かれており、土留用と考えられます。切岸の造成方法は、明知城跡の出丸においても共通していますが、特に本丸虎口が顕著で分かりやすい状態で検出されました。

土層模式図



## ③本丸からの出土品

天目茶碗や茶入といった茶の湯で使用するような道具の他、ある程度復元のできるすり鉢、中国磁器の青磁が出土しました。



天目茶碗(17C前半) 茶入(16C後半) 青磁

すり鉢(17C前半)

## ○明知城の変遷

### 【1期】(16世紀中頃)

明知城が築城されました。自然地形から曲輪を造成して、本丸と出丸に掘立柱建物等が建てられました。

### 【2期】(17世紀初頭)

本丸と出丸は大改修により曲輪面積が拡張され、礎石建物と石垣が整備されました。この時期の出丸は出土した高級陶磁器、正面に巨石を見せつける造りから、本丸と比較して格式の高い空間だったと考えられます。しかし存続は短期間で、陣屋に居を移すことになり、山城としては廃されました。

### 【3期】(17世紀中葉)

城が廃された後、本丸は顕彰の場として活用されましたが17世紀後葉には使用されなくなったと考えられます。出丸は利用されていなかったと考えられます。

## ○まとめ

### ①出丸で巨石を用いた石垣を発見

17世紀初頭(第2期)には本丸と出丸の入り口に石垣を用いていたことが判明しました。出丸の石垣は岩盤を削った上に巨石を際立たせるように並べた石垣でした。

### ②出丸の造成は本丸と同時期と確認

出丸は本丸と同様に大規模な造成があったことを確認しました。

第1期(16世紀中頃):自然地形を削平、盛土し、平坦面を造成しました。柱穴が確認されています。

第2期(17世紀初頭):第1期の曲輪に切土や盛土を行い、さらに広い平坦面を造成しました。

本丸ではそれ以降の第3期まで確認しましたが、出丸では確認していません。

### ③17世紀初頭の切岸造成の技法を解明

第2期の拡張の際には本丸も出丸も階段状に斜面を削って水平にし、その上に盛土をすることで曲輪(人工的な平坦面)と切岸(人工的な急斜面)を造成していることが判明しました。曲輪の端(切岸)を強固で崩れにくくするための工夫と考えられます。



恵那市公式キャラクター「エーナ」

## ○中井均(なかい ひとし)氏のコメント

(滋賀県立大学名誉教授、恵那市明知城跡調査検討委員会委員長)

明知遠山氏という戦国時代の在地領主は16世紀半ばに城を築き、戦乱に伴い城を奪われていた。1600年の関ヶ原の合戦後、旧地に領主として戻り山城を大改修して出丸の御殿に居住したが、一国一城令や大名家格制度の整備により城を廃して陣屋に移り住んだことが発掘により明らかになった。戦国時代から近世の在地領主居城の歴史的変遷が分かったことは大きな成果である。

〒509-7292

岐阜県恵那市長島町正家一丁目1番地1 恵那市教育委員会 文化課

TEL 0573-26-2153

FAX 0573-26-2189

本調査においては、明智町の皆様には大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。